

6/30 2010



Japan Music Education Society *News Letter*

第40号

No. 40

日本音楽教育学会ニュースレター

目次

【巻頭言】 会長就任のご挨拶.....	2
1 報告・お知らせ	
1-1 平成 22 年度役員一覧・委員一覧.....	3
1-2 平成 22 年度第 1 回常任理事会報告	4
1-3 平成 22 年度第 1 回理事会報告.....	6
1-4 編集委員会からご挨拶と報告	11
『音楽教育実践ジャーナル』 vol.8 no.2 特集・原稿募集.....	13
1-5 広報委員会設置のためのワーキンググループから報告	14
2 日本音楽教育学会第 41 回大会（埼玉大会）へのご案内（2）	
2-1 大会日程・企画等	15
2-2 院生フォーラム発表者募集 ～ポスターセッション～.....	16
3 海外トピックス	
3-1 ISME 第 29 回世界大会（北京大会）のご案内.....	16
4 ワークショップ	
4-1 第 5 回ワークショップ in Sapporo 2010 のお知らせ	17
5 事務局より	
5-1 事務局長ご挨拶.....	19
5-2 お知らせとお願い.....	19
5-3 事務局開局時間とスタッフ.....	19
編集後記	

【巻頭言】 会長就任のご挨拶

加藤富美子

2010年4月より会長に就任いたしました。吉田前会長のもとでの前期の成果や懸案事項をふまえて、会員のみなさまのお力をお借りしながら、本学会のさらなる発展をめざして力を尽くして運営にあたっていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

日本音楽教育学会は、昨年40周年を迎えました。この40年間に、本学会がわが国の音楽教育の研究と実践に寄与してきた役割は多大なものです。前期にはその成果のまとめとして、日本音楽教育学会40周年記念誌『40年の歩み』が刊行されましたが、そこからは、これまで本学会が多様な活動を果敢に展開してきたことを読み取ることができます。1999年から2008年の10年間だけをとってみても、学会誌『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』の年2冊ずつの刊行、毎年、年次大会における膨大な数にのぼる研究発表・大会実行委員会企画・プロジェクト研究、3回の音楽教育ゼミナール（内1回は日韓合同ゼミナール）、4回の夏期ワークショップの開催、そして30周年記念論文集『音楽教育学研究1～3』ならびに『日本音楽教育事典』の刊行と、実に充実しています。そして2009年度には、設立40周年記念論文集『音楽教育学の未来』が刊行され、韓国において韓日合同ゼミナールが開催されました。

ただ、これだけの活動に取り組みつつも、こうした学会での活動が、一人一人の会員にとって、そして社会にとって、真に役に立つものとなっているかどうかという点については、まだまだ十分とは言えないと思われまます。そこで今期は、以下の2点を大切にしながら本学会の運営にあたって参りたいと思います。

第一は、「みんなでつくる学会」にすることです。

本学会は会員数1,500人を越えるわが国でもっとも大きな音楽教育の学会であり、音楽教育のさまざまな分野を専門とする会員が集っています。そのお一人お一人の力がこれまで以上に生かされ合うようにすることが、音楽教育の発展につながっていくことと思います。そのために、学会という場で発表し合い、語り合い、学び合い、情報交換し合うことを、より活性化する方策を考えていきます。

第二は、「研究と実践をつなげる学会」にすることです。音楽教育の研究は幅広い分野をカバーしていますが、そのすべてが音楽教育の実践と深くつながっています。学会として、研究と実践のつながりを改めて確認しながら、研究が実践に生かされ、実践が研究に生かされるようにしていきます。

以上の2点を実現していくために、学会誌、年次大会、地区例会、ニュースレター、学会ホームページ、そして役員組織の在り方など、学会活動の諸側面にわたり、少しずつ改革を行っていきたいと考えています。具体的には、以下のような例があげられます。

- ・学会誌『音楽教育学』の論文掲載数を増やしていくための方策についての検討を初めとし、ニュースレターならびにHPの内容充実に向けての広報委員会の設置などを検討していきます。
- ・それぞれの地区の特色を出しながらとても面白い企画が目白押しになってきた地区例会です。そのさらなる充実をはかりつつ、学会主催のワークショップの地区での開催などを検討していきます。

・若い方々の力が本学会により生かされるよう、研究ならびに運営の両面にわたって活躍していただける場を積極的に設けることを検討していきます。

最後にあたり、学会の会計面での現状を会員のみなさまにお伝えし、ご協力をお願いしたいと思います。平成21年度決算ならびに平成22年度補正予算案などをご覧になっていただくとお分かりになりますように、本学会は年会費に比べて多彩な活動を行っているため、会計面でとてもきつい状況です。すでに常任理事会、理事会では経費節減をめざして、さまざまな検討をはじめています。学会の諸活動のさらなる活性化をはかりつつ経費節減をめざすという難題に取り組んでいく今期となります。この点についても、会員の方々からの多くのご協力、ご理解をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

1 報告・お知らせ

1-1 平成22年度役員一覧・委員一覧

◎は地区担当理事

	氏名(所属)	選出地区	担当
会 長	加藤 富美子 (東京学芸大学)		
副会長	有本 真紀 (立教大学)	関東	
事務局長	今川 恭子 (聖心女子大学)	関東	
常任理事	今田 匡彦 (弘前大学)	◎東北	企画
	小川 容子 (鳥取大学)	中国・四国	総務
	奥 忍 (大阪芸術大学)	近畿	編集
	島崎 篤子 (文教大学)	関東	会計
	杉江 淑子 (滋賀大学)	近畿	会計
	坪能 由紀子 (日本女子大学)	関東	総務
	南 曜子 (金城学院大学)	東海	企画
理 事	寺田 貴雄 (北海道教育大学)	◎北海道	
	阪井 恵 (明星大学)	関東	
	筒石 賢昭 (東京学芸大学)	関東	
	西島 央 (首都大学東京)	関東	編集
	山本 幸正 (国立音楽大学)	◎関東	
	後藤 丹 (上越教育大学)	◎北陸	
	新山王政和 (愛知教育大学)	◎東海	
	田中多佳子 (京都教育大学)	◎近畿	
	三村 真弓 (広島大学)	◎中国・四国	
	菅 裕 (宮崎大学)	九州	
	木村 次宏 (福岡教育大学)	◎九州	
会計監事	田中 健次 (茨城大学) 本多 佐保美 (千葉大学)		

編集委員会	委員長：村尾 忠廣 (2 期目) 委員：有本 真紀 (2 期目) 澤田 篤子 (2 期目) 尾見 敦子 (1 期目) 藤井 浩基 (1 期目) 奥 忍 (常任理事互選)	副委員長：伊野 義博 (1 期目) 今田 匡彦 (2 期目) 中山裕一郎 (2 期目) 佐野 靖 (1 期目) 本多佐保美 (1 期目) 西島 央 (理事互選)
国際交流委員会	委員長：水戸 博道 (1 期目) 委員：疇地 希美 (1 期目) 森下 修次 (1 期目)	副委員長：田中 多佳子 (理事選出) 下道 郁子 (1 期目)
音楽文献目録委員会	委員：木間 英子 関口 博子 長野 麻子	
学会賞審査委員会	加藤 富美子 権藤 敦子 佐野 靖 八木 正一	伊野 義博 坪能 由紀子 村尾 忠廣
選挙管理委員会	委員長：永岡 都 委員：桐原 礼	副委員長：中嶋 俊夫 鈴木 慎一朗 村上 康子

1-2 平成 22 年度第 1 回常任理事会報告

日 時：平成 22 年 5 月 9 日 (日) 13:00~14:30

場 所：立教大学 会議室 201

出席者：加藤、有本、今川、今田、小川、奥、島崎、杉江、坪能、南 (記録)

【審議事項】

1 平成 21 年度決算報告及び監査報告

決算内容の要点が今川前期会計監査より説明された。とくに予算に対して大幅な支出増となった「学会誌費」について、平成 20 年度決算において本来当該年度内で決済すべき 2 回の『音楽教育実践ジャーナル』発行費用のうち 3 月払い分を次年度払いに先送りするという措置を行ない、この先送りを 21 年度決算において改めたため大幅な支出増となったことが説明された。また「事務局費」については、事務局の移動に伴う運営費増や人件費の増加等の問題について説明がなされた。

2 平成 22 年度事業計画及び補正予算について

前年度繰越金の大幅な減額に伴う補正予算案の説明が島崎会計担当理事よりなされた。すべての予算科目において 21 年度決算を参考にしつつも節約を目指し、とくに「学会誌費」と「印刷費」については、より安価な編集・印刷業者に依頼するよう努力を続けていくことなどが確認された。

3 平成 23 年度事業計画及び予算について

今川事務局長より説明された。加藤会長より、記載はないが、23 年度事業修正案として、2004 年以来発行されていない会員名簿の発行もあり得るとの発言があった。

4 第 41 回大会について

- 大会実行委員会

八木正一大会実行委員長および伊藤誠大会事務局長のメッセージが代読され、資料に基づき説明がなされた。

○ 常任理事企画

これまで行われてきた2本のプロジェクト研究枠について、いずれも2年単位で計画されるものであること、そのうち2年目の枠を「プロジェクト研究Ⅰ」、1年目の枠を「プロジェクト研究Ⅱ」とすること、そのうえで、本大会の「プロジェクト研究Ⅰ」は、杉江前企画担当理事をファシリテーターとする『「現代音楽」のゆくえと音楽教育—その可能性を探る—(2)』であることが確認された。「プロジェクト研究Ⅱ」については、今田企画担当理事よりの提案に基づいて協議し、継続検討することが確認された。今後の展開の仕方として、常任理事の任期が2年であることを考慮し、1年目は問題提起的な内容、2年目は時間をかけた調査等の成果発表、といったような方向性が良いのではないかという意見が出された。

○ 院生フォーラムについて

加藤会長より、関東の院生連絡会が中心になって活動することが予想されるため、筒石関東地区理事にまとも役をお願いしたい旨の説明があり、承認された。

5 第42回大会（近畿地区）について

杉江氏より、奈良教育大学に要請・検討中である旨、説明があった。

6 広報委員会設置について

加藤会長より、今年度中に委員会設置の方向が示され、これまで常任理事が輪番制で行ってきたニュースレター編集作業を当該委員会に移行するなど、設置趣旨の説明があり、承認された。

7 倫理ワーキンググループ設置について

今川事務局長より、設置趣旨および立ち上げのための人選や情報収集を行っている等の説明があり、加藤会長より、遠山文吉、権藤敦子、西島央、今川恭子の各氏がメンバーの候補者としてあげられた。

8 今期各委員会について

資料にもとづき説明があった。

9 ワークショップとゼミナールについて

坪能氏よりこれまでの両者の開催の経緯が報告され、2007年日韓および2009年韓日合同ゼミナールを本学会の第9回、第10回ゼミナールとすること、ゼミナールとワークショップは隔年交互に開催すること、したがって、本年度はワークショップ開催年であること、さらにゼミナールの宿泊負担を軽減する方向が確認された。また平成21年10月2日（金）常任理事会・理事会合同会で吉田前会長から提案された「学会活動検討委員会答申の扱いについて」についても検討された。その結果、明確な方向性は出なかったものの、ワークショップについては時期、場所ともに可能性を広げることが確認された。今年度のワークショップ開催をどうするかについては結論が得られず、理事会に持ち越された。

10 参事制度について

加藤会長より、若い研究者の学会活動および学会への貢献という趣旨に基づき参事制度を導入したい旨の説明があった。参考資料として東洋音楽学会定款施行細則第15条が配布された。

11 学会誌掲載論文の著作権に関する問い合わせについて

今川事務局長より、今後の検討課題として、資料に基づき説明があった。

<平成22年度第2回常任理事会の予定>

7月4日（土）13:00より、立教大学で開催されることになった。

1-3 平成 22 年度第 1 回理事会報告

日 時：平成 22 年 5 月 9 日（日）14：30～17：30

場 所：立教大学 会議室

出席者：加藤、有本、今川、今田、小川、奥、木村、後藤、阪井、島崎、菅、杉江、筒石、
田中（多）、坪能、寺田、西島（記録）、南、三村、
田中（健）前期会計担当常任理事（会計報告）、亀山（事務局）

加藤富美子会長の挨拶の後、資料により会務報告を確認した。

<平成 22 年 2 月 22 日以降の会務報告>

2 月 22 日	平成 21 年度第 4 回常任理事会	4 月 10 日	平成 22 年度 第 1 回編集委員会
3 月 31 日	ニューズレター第 40 号 発行 『音楽教育実践ジャーナル』vol.7-no.2 発行 平成 21 年度会計決算	4 月 30 日	平成 21 年度会計監査会
		4 月 30 日	音楽教育関係文献リスト申請締切
		5 月 9 日	平成 22 年度第 1 回常任理事・理事会

【審議事項】

1 平成 21 年度決算報告及び監査報告

田中前期会計担当理事より決算報告がされた。選挙のやり直し等による予備費の支出、学会誌費が予算を大幅に上回った決算になったこと等の説明がなされた。坪能理事より、前年からの繰越金 3,914,015 円が次年度繰越金 1,259,368 円に減っていることが指摘され、その理由についての質問があった。繰越金減少の要因は、上記学会誌費の精算の件と事務局経費の上昇の他、多くの経費が予算オーバーであること等が述べられた。続いて特別会計についての報告がなされ、40 周年記念事業関係の支出、選挙費用の支出等が説明された。その後今川・奥前期会計監事から、学会誌費の平成 20 年度決算時の処理に関しては会計監事としても責任がある旨が述べられた上で、平成 21 年度会計が正しく処理されているとの監査結果が報告された。最終的に全員一致で会計報告を承認した。

2 平成 22 年度事業計画及び補正予算について

今川事務局長より、平成 22 年度事業計画について次の通り提示され確認した

4 月 10 日	平成 22 年度第 1 回編集委員会		第 41 回大会プログラム発送
4 月 30 日	平成 21 年度会計監査会	9 月 24 日	第 3 回編集委員会
5 月 9 日	平成 22 年度第 1 回常任理事・理事会		第 3 回常任理事会・第 2 回理事会
6 月 1 日	第 41 回大会 研究発表・共同企画申し込み締切	9 月 25～26 日	第 41 回大会・総会 会場：埼玉大学
6 月中～下旬	研究発表受理通知	12 月下旬	音楽教育学 第 40 巻第 2 号 発行 ニューズレター 第 42 号 発行
6 月下旬	音楽教育学 第 40 巻第 1 号 発行 ニューズレター 第 40 号 発行	平成 23 年	
7 月上旬	平成 22 年度第 2 回常任理事会 平成 22 年度第 2 回編集委員会	2 月中旬	平成 22 年度第 4 回編集委員会 平成 22 年度第 4 回常任理事会
8 月上～中旬	第 41 回大会プログラム公開（HP）	3 月末日	音楽教育実践ジャーナル Vol.8.No.2 発行 ニューズレター第 43 号 発行 平成 22 年度会計決算
8 月下旬	音楽教育実践ジャーナル Vol.8.No.1 発行 ニューズレター 第 41 号 発行		

※この他、検討を経た上でワークショップ開催の可能性があることが加藤会長より示唆された。

続いて島崎会計担当常任理事より、繰越見込み金と繰越金決算額の相違等のため補正予算を組む必要性が説明され、21年度決算に基づいた上で可能な限り経費節減を目指すという趣旨の平成22年度補正予算案が提示され、全員一致で承認した。

3 平成23年度事業計画及び予算について

今川事務局長より平成23年度事業計画が示され、加藤会長からゼミナール開催並びに会員名簿作成が検討の上で加わる可能性が付け加えられた。続いて島崎会計担当常任理事より平成23年度予算案が提案され、全員一致で承認した。

4 第41回大会について

- 大会実行委員会について：八木正一大会実行委員長および伊藤誠大会事務局長のメッセージと大会案内（資料）が紹介された。
- 常任理事企画について：常任理事会決定事項を承認した。
- 院生フォーラムについて：会長原案を承認したうえで、以下のことを確認、決定した。
 - ・ 院生フォーラムの位置付け：大会実行委員会が行うのではなく、院生が主体になって行う。
 - ・ 理事の中から1名が責任者として関与する。今年度は関東地区の筒石理事が責任者となる。
 - ・ フォーラムの内容は基本的に院生に委ねる。
 - ・ ポスター発表の資格は会員に限る。
 - ・ 非会員の院生がフォーラムだけに入場する場合も、当日参加費を払う。

5 第42回大会（近畿地区）について

奈良教育大学にて2011年10月22日、23日開催の方向性で検討中であることが加藤会長から報告され、その方向性を全員一致で承認した。

6 広報委員会設置について

加藤会長より、会則14条の6にもとづき広報委員会を設置することが提案され、ニュースレターとホームページ改革を当面の課題として小川容子常任理事、齊藤忠彦氏、志民一成氏によるワーキンググループの立ち上げが全員一致で承認された。次回理事会までに委員会規定案を作成することとなった。

7 倫理ワーキンググループ設置について

学会としての課題を明らかにすることを当面の主目的として、遠山文吉氏、榎藤敦子氏、西島央氏、今川恭子氏によるワーキンググループ立ち上げが加藤会長から提案され、全員一致で承認された。

8 今期各委員会について

加藤会長より、既にメール会議によって承認されていた編集委員会、国際交流委員会、選挙管理委員会および音楽文献目録委員会の構成の確認が求められ、全員で確認、あらためて承認した。なお、学会賞審査委員会については、委員会規定の読み方について全員で確認した上で承認した。

9 ワークショップとゼミナールについて

ワークショップとゼミナールに関して常任理事会で決定した基本的な方針を全員一致で承認した。そのうえで、ゼミナールの規模を縮小してより研究的な内容にすること、ワークショップの開催地は東京に限らないこと、日韓（韓日）ゼミナールについては従来の形に拘らずゼミナールやワークショップの中に統合する可能性についてなどが話し合われた。今年度はワークショップを開催する方向で合意し、東京以外の地域における開催可能性を、時期の検討も含めて早急に寺田北海道地区代表理事を中心に検討することとした。

10 役員の選挙に関する細則（会則）ならびに選挙実施時期について

「日本音楽教育学会 細則 第五章 役員の選挙に関する規則」における会長の被選挙権に、会費納入に関する記述がない。これについて検討を開始することが加藤会長より提案され、全員一致で承認した。なお、選挙日程は今後選挙管理委員会中心に検討することを全員一致で承認した。

11 学会賞審査委員会規定について

加藤会長より、学会賞審査委員会規定の一部（下線部）の表現が曖昧であるため次回理事会までに改定案を作成し、今年度中の改訂を目指す提案がなされ、文言の案について若干の検討を行った後全員一致で承認した。

12 例会費の扱いについて

今年度から、例会費の残金は年度末の会計報告と同時に、学会本部に返却することを全員で確認した。

13 参事制度について

学会運営への参与を通して若い研究者を育成するとともに学会運営の仕事を分担することを目的とした参事制度の導入について加藤会長から提案され大筋で承認された。筒石理事より、参事という名称の適切性について更なる検討が要望された。名称も含めて、参事制度導入に必要な細則改訂案を今後会長と総務担当常任理事を中心に作成し、次回理事会に提案することとなった。

14 名誉会員について

今年度は該当者がいないことが確認された。今後は該当年齢を70歳以上としてはどうかという意見が出され、全員が賛成した。

15 学会誌掲載論文の著作権に関する問い合わせについて

今川事務局長より、SCPJ(Society Copyright Policies in Japan)等からの問い合わせに対してすべて「検討中」と回答している現状が報告され、学会の著作権ポリシーが今後の検討課題であることを全員で確認した。

16 新入会員及び退会者について

今川事務局長より報告され、承認された（一覧表として、9頁-10頁に掲載）。

【報告事項】

1 各委員会報告

- ・編集委員会（本ニュースレター「1-3」参照）
- ・国際交流委員会

委員長・副委員長の選出と今年度の活動計画について田中理事より報告された。

・音楽文献目録委員会

第一回会議が4月3日に開催され、2009年度決算および2010年度予算が承認されたこと、樋口隆一委員長が互選により選出されたことが、木間委員・関口委員に代わって今川事務局長より報告された。

・選挙管理委員会

委員長・副委員長を互選により決定し、6月5日に第一回委員会を開催予定であることが、永岡委員長にかわって今川事務局長から報告された。

2 例会報告 各地区担当理事から以下の通り報告された。

北海道	3月 7日 (日)	札幌市教育文化会館	近畿	5月30日 (土)	和歌山大学教育学部
東北	2月13日 (土)	岩手大学教育学部		3月 6日 (土)	帝塚山大学
関東	3月 6日 (土)	横浜国立大学	中国四国	3月28日 (日)	愛媛大学
北陸	2月27日 (土)	上越教育大学	九州	2月20日 (土)	福岡教育大学
東海	3月 6日 (土)	愛知教育大学			

3 ワーキング報告

今年度最初のニュースレターの予定について、小川総務担当常任理事（広報ワーキンググループ）から報告された。

<平成22年度第2回理事会の予定>

第2回理事会 9月24日(金) 時間未定、埼玉大学にて開催の予定である。

新入会員： 15名

学生会員： 3名

申し出退会者： 43名

4月30日現在 正会員数：1504名

ちょっとお知らせ

若手研究者のための「日本学術振興会 育志賞」が新しく創設されました。独立行政法人日本学術振興会から、本学会に候補者1名の推薦依頼がきております。学会HPに応募要領を掲載いたしましたのでご覧ください。「育志賞」については下記HPをご覧ください。

<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>



1-4 編集委員会からご挨拶と報告

編集委員会委員長 村尾忠廣

ご挨拶

オーストラリアに「Research Studies in Music Education (RSME)」という音楽教育研究誌があります。この研究誌が世界 A ランクに格上げされたというので、編集長の M. Barrett は友人、知人にメールで喜びの報告をしておりました。格付け会社によるランクづけは、今や企業や銀行、証券会社から大学や研究所にまでおよんでいます。Barrett のメールは、それがさらに進んで、音楽教育の学会や学会誌にまでおよんでいることを意味しているのです。日本では「日本音楽教育学会」が音楽教育研究の唯一の学会でありました。が、それは昔のこと、今ではさまざまな学会、研究組織がつくられ、学会誌も発刊されています。当然ながら学会誌もさまざまです。学会誌論文といえども同じように評価されるわけではありません。学会、学会誌も競争する時代になってきたのです。

こういう状況ですから、日本音楽教育学会の学会誌『音楽教育学』の研究論文の査読が厳しくなってきたのはやむをえないことかもしれません。しかし、昨年の山本元会長の記念講演でも指摘を受けましたように、大会口頭発表が年々激増しているのに対し、学会誌の掲載論文の方は激減しています。これは何とかしなければなりません。論文の質を落とすことなく、掲載率を高めるにはどうしたらよいか。このことは今期の編集委員会の最大の課題として重く受けとめております。

一方、『音楽教育実践ジャーナル』の方は、企画の面白さとか、また、査読を厳しくしてこなかったせいもあるでしょうが、投稿数が非常に多くなってきました。そのため前期の編集委員会から実質的に「査読による掲載」の採否決定をしています。投稿規定には「内容によっては、査読者の判断を求めることがある」となっていますが、実質的に査読をおこなっているわけですから、『ジャーナル』掲載論文が「査読付」論文であることを明記すべきかもしれません。「査読付」であるかどうかは、論文評価の一つの大きな基準となっているからです。が、そのように投稿規定を改定することが本当に『ジャーナル』にとってよいことにつながるかどうかは、議論のわかれるところです。広く会員のみなさまの意見をお伺いしたい、と考えております。

いずれにしましても、これから2年間、多くの課題の解決を図りながら、よりよい（知的で面白く刺激的な）学会誌を目指して一生懸命はたらく所存です。どうかよろしく願いいたします。

第1回編集委員会報告

加藤会長より要請があり、今年度第1回の編集委員会は4月10日、立教大学で開催されました。最初に人事案件が話し合われ、互選の結果、委員長に村尾委員、副委員長には伊野委員が選

出されました。

1 『音楽教育学』(第40-1号)について

「研究動向」は、「音楽教育の哲学的研究」について焦点をしぼり、原稿を依頼しました。依頼原稿の一つは、海外の著名な研究者によるもので、すでに翻訳を終えています。投稿論文では、研究報告が2本、研究論文が1本掲載可となりました。ただし、いくつか修正を要請しています。書評論文、書評につきましても、それぞれ1本掲載されることになりました。かつて『音楽教育学』は非常に薄っぺらな学会誌で、統廃合されかねない状況に追い込まれたこともありましたが、このところすっかり充実してきています。『ジャーナル』だけでなく、『音楽教育学』についても編集委員会で企画しようということになったからです。『40-1号』につきましても、充実した学会誌として6月下旬にはお送りできると思っております。

2 『音楽教育実践ジャーナル』について

ニュースレター38号で原稿募集をしておりますように『音楽教育実践ジャーナルvol.8 no.1 (通巻15号)』では「日本語をどのようにうたうか」を特集テーマとしております。特集テーマ、自由投稿ともにたくさんの方から投稿をいただきました。有り難うございます。残念ながらすべて掲載ということはできませんでしたが、次の機会に投稿していただくようお願いいたします。特集では、林光氏と米川敏子氏との対談が実現いたしました。実に興味深い内容として8月にはお届けできるものと思っております。『音楽教育実践ジャーナルvol.8 no.2 (通巻16号)』の特集についても大体の方向が決まりました。詳しくは、学会ホームページとニュースレターで特集テーマとして公表し、原稿募集をいたしますが、「音楽科の学習の独自性と総合的教育」といった方向でのテーマを予定しています。アジア諸国で芸術統合教育や総合教科への方向が推し進められつつある中で、日本の総合的学習が後退の兆しを見せつつあるからです。

第1回の編集委員会では急いで取り組むべき『音楽教育学』、『音楽教育実践ジャーナル』の編集業務についてしか話しあうことができませんでしたが、さまざまな運営上の課題を確認しております。それらは、第2回の編集委員会で取り上げ、論議することになります。次回編集委員会報告では、その論議の結果もご報告できるのではないかと、思っております。



『音楽教育実践ジャーナル』 vol.8 no.2 (通巻第 16 号) 特集・原稿募集

特集テーマ「音楽科と他教科の連携—何を拓くためにどの教科とどのように連携するのか—」

『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.2 (通巻 16 号)の特集に向け、下記の要領で原稿を募集します。テーマ設定の趣旨をご理解いただき、多数のご投稿をお待ちしております。

最近の義務教育における音楽教育をめぐる世界の動向を見ると、音楽科には「図画工作・美術」や身体表現、社会科のような調べ学習が持ち込まれるなど、他教科との連携・統合の傾向が見られます。

連携の発端の一つは 1999 年のユネスコの「学校における芸術教育と創造力の振興に関するアピール」です。このアピールを受けて国際演劇教育協会 (ISDE)、国際音楽教育協会 (ISME)、国際美術教育協会 (InSEA)、国際ダンス教育協会 (World Dance Alliance) が協同して「創造性」を核に個別芸術教科の枠を越える学習の開発を進めています。「創造性育成」は現在の学校教育に最も重要とされています。この課題について音楽科は何とどう連携することによってどう応えることができるのでしょうか。

また、学校教育に関する別の大きな課題として「国内外の文化、文明、価値および生活様式に関する理解と尊重」が挙げられます。音楽科はどのような教科とどう連携することによってこの課題を実現することができるのでしょうか。

さらに、他教科と連携した音楽科の学習は「総合的な学習の時間」における音楽的な活動と何が異なるのでしょうか。音楽の学習内容と子どもたちが獲得すべき力を保証するために私たちは何をすべきなのでしょうか。

本特集では、連携・統合の背後に潜むものは何か、音楽科独自の学習の意義は何か、どのような理念の下に何と連携するのか、他教科との連携によって音

楽科の学習はどう変わるのか等々、この問題をめぐってさまざまな角度から音楽教育に切り込み、これまでに行われた実践について有効性を検証していきたいと思います。

どうぞ実践例をお寄せ下さい。連携の理念や歴史などについても議論していきたいと思います。

【投稿時のお願い】

○投稿の際には封筒に「ジャーナル特集投稿」と朱書し、下記送付先にご郵送ください。

vol.8 no.2 (通巻 16 号)特集投稿送付先
〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26

日本音楽教育学会事務局 [編集担当] 宛

【別紙 1】投稿申込書と【別紙 2】投稿者用チェックリスト各 1 部 (学会ホームページよりダウンロードできます)を同封し、原稿 4 部をお送りください。

○お問い合わせ onkyoiku@remus.dti.ne.jp

○論文、実践報告、提言など、種別の希望がありましたらお知らせください。ただし、審議の結果、希望通りにならない場合もあります。

○書式、字数等は学会ホームページの『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定および「投稿の手引き」、テンプレートをご参照ください。図表、写真等も挿入スペースを文字数に換算して字数に含めます。

○原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一 10 日以上経っても通知がない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

○採択された原稿については、編集委員会から 10 月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては、修正をお願いする場合があります。

○特集投稿×切：2010 年 9 月 15 日必着

『音楽教育実践ジャーナル』バックナンバーをセット販売します

創刊号(Vol.1-No.1)から通巻14号(Vol.7-No.2)まで全14冊を11,000円(送料込み)で販売しております。購入ご希望のかたは以下の項目を明記して、事務局にファックスまたはEメールでお申し込みください。

- ・ お名前
- ・ ご希望の誌名(『音楽教育実践ジャーナル』全号セットと明記ください)
- ・ 送付先住所・電話番号(連絡先が送付先と異なる場合は連絡先も)
- ・ 昼間連絡可能なファックス番号または電話番号もしくはメールアドレス
- ・ 見積書・納品書・請求書の宛名



※バックナンバー1冊ずつの場合価格は以下の通りです。
創刊号～通巻9号(Vol.5-No.1) …… 各800円 + 送料
通巻10号(Vol.5-No.2)以降～ ……各1,000円 + 送料
※『音楽教育学』バックナンバーについては事務局にお問い合わせください。

1-5 広報委員会設置のためのワーキンググループから報告

小川容子・志民一成・齊藤忠彦

このワーキンググループでは、会長からの要請を受けてニュースレターの意義、送受信を含めた情報伝達のあり方、会員交流の方法、ホームページの充実等の課題について活発に議論しております。広報委員会を始動するための「模索の一步」でもあります。今回はニュースレターの改革について話し合いましたのでご報告いたします。

2000年3月にニュースレター第一号が刊行されてから10年、そろそろ、情報とは何かについて整理すべき時期にきたのではないかと思います。常に可視化しておきたい情報、いざと言う時のために貯蔵しておきたい情報、期限付きで覚えておきたい情報、今すぐに知りたい情報・・・というのは、それぞれにふさわしい取り扱いをすべきでしょう。そのために、今回思い切って、ニュースレターを2種類の内容に分けることにしました。『音楽教育学』同封時は、事務局や諸委員会からのお知らせや報告といった「掲示板」としての役割を主とし、『音楽教育実践ジャーナル』同封時は、会員の皆様からのさまざまな声やホットなニュースを中心に、「学术交流の場」として機能させたいと思っております。内容によっては学会のホームページとリンクさせることも必要になります。たとえば、ニュースレターでは簡単な紹介にとどめて詳細はホームページに掲載する、「学术交流の場」で提起された課題をホームページ内で中・長期保存するといった工夫もしたいと思っております。トピックに応じてインタビューやアンケートをおこなうことや、各地区ごとの話題の発掘も検討中です。もちろん、余白・行数・文字ポイント・頁数・穴あけ等の体裁についても改良を重ねたいと思っております。

情報は、貯蔵・検索されるだけでなく、交換し共有しあうことによって顕在化され、新たなモノ・コトへと形を変えていくものではないでしょうか。ニュースレターから発信された情報がさまざまに形を変えて伝搬し、活用され、創造され・・・そのようなダイナミックなニュースレターでありたいと願っております。

2 日本音楽教育学会第 41 回大会（埼玉大会）へのご案内（2）

2-1 大会日程・企画等



大会実行委員長：八木 正一

同 事務局長：伊藤 誠

平成元年（1989）の第 20 回記念大会以来、21 年ぶりに埼玉大学で開催する運びとなりました。期日は 9 月 25 日（土）から 26 日（日）の二日間です。ここ数年のうちでは早い時期の開催となります。これまで大会実行委員会の議を経て決定したことをご案内させていただきます。今後は情報を Web 上でお知らせすることになります。もしご不明の点などがございましたら、下記連絡先までご照会頂ければと思います。

キャンパスは決して広くはありませんが、4 年前に教育学部 A 棟を中心に耐震・改修工事を行いましたので、建物の環境や各教室の設備は整ったと思います。学会事務局と連携をとりながら「思い出に残る大会」にしたいと思っています。

……皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

教育学部 左の建物：C 棟 C1 教室～シンポジウム&総会会場
右の建物：A 棟～研究発表&プロジェクト研究会場

□大会スケジュール

両日とも午前は研究発表の時間、25 日（第 1 日目）の午後は 13:30 からプロジェクト研究と共同企画、その後 2 時間のシンポジウム、17:30 から総会を開催して 18:30 から懇親会を予定しています。26 日（第 2 日目）の午後は、1 日目同様にプロジェクト研究と共同企画を予定しています。

□シンポジウム（大会実行委員会企画）

テーマ「感動と理解 —美学・芸術の視座から「音楽」そして「教育」を考える—

新実徳英（にいみ・とくひで）先生 <作曲家、桐朋学園大学大学院大学教授>

小穴晶子（こあな・あきこ）先生 <美学者、多摩美術大学教授>

……お二人の先生をお迎えして、音楽の宇宙論、音楽の原理や本質についてお話頂きます。

🍎大会実行委員会メンバー

八木正一、伊藤 誠、蛭多令子、小川昌文、小池順子、神月朋子、齊木美紀子、三戸 誠、志村洋子、鈴木範之、田中健次、山本真紀、山本幸正（以上 13 名）

連絡先：cyr01763@nifty.com/048-858-3246（研究室直通、兼 Fax.）伊藤 誠

□埼玉大学への交通案内（最寄り駅までの所要時間）

JR 東京駅から北浦和駅まで（京浜東北線快速を利用） 40 分

JR 新宿駅から南与野駅まで（埼京線を利用） 35 分

羽田空港第 1(2)ビル駅から北浦和駅まで（モノレールと京浜東北線快速を利用） 70 分

*最寄り駅の北浦和駅（または南与野駅）から、さらにバスで 10～15 分かかります。

埼玉大学教育学部 A 棟 2 階の学生ラウンジ

通称：エデュ・スポ（Edu-Spo）

当日、このスペースは会員控室、出展用ブース、クロークとして使用されます。改修前は、教授会等が行われた会議室でした。

（4/23 撮影）



小穴 晶子 先生 プロフィール

東京大学文学部卒業。同大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。『なぜ人は美を求めるのかー生き方としての美学入門ー』（ナカニシヤ出版、2008）、『バロックの魅力』（編著）（東信堂、2007）、『モーツァルティアーナ』（共著）（東京書籍、2001）、『音楽の宇宙』（共著）（音楽之友社、1998）、『精神と音楽の交響』（共著）（音楽之友社、1997）、『美と新生』（共著）（東信堂、1988）、『西洋美学のエッセンス』（共著）（ベリかん社、1987）、A.ナイランド『パイプオルガンを知る本』（共訳）（音楽之友社、1988）、『音楽美学ー新しいモデルを求めてー』（共著）（勤草書房、1987）、他。現在、多摩美術大学教授（専攻・美学芸術学・音楽美学）。

新実 徳英 先生 プロフィール

東京大学工学部卒業。東京芸術大学作曲科卒業、同大学院研究科修了。77年第8回ジュネーブ国際バレエ音楽作曲コンクールでグランプリ受賞。82年文化庁舞台芸術創作奨励賞受賞。03年別宮賞受賞。06年オペラ『白鳥』で佐川吉男音楽賞受賞。07年協奏的交響曲で尾高賞受賞。著書に『風を聴く 音を聴く』（音楽之友社、2003）、『うたの不思議ー白いうた青いうたの秘密ー』（音楽之友社、2009）<『教育音楽（中学・高校版）』2004～2006連載>、『新実徳英の作曲入門』（音楽之友社、2010）<『教育音楽（中学・高校版）』2006～2009連載>。現在、桐朋学園大学大学院大学教授。桐朋学園大学、同短期大学非常勤講師。

□ 埼玉大会のHPができました。少しずつ更新をおこなっておりますのでどうぞお立ち寄りください。

URLはこちら <http://www.music.edu.saitama-u.ac.jp/jmes41th>

2-2 院生フォーラム 発表者募集 ～ポスターセッション～

院生フォーラム担当：筒石賢昭

第41回埼玉大会では、第1日目のお昼の時間に、関東地区の大学院生連絡会の企画・運営による院生フォーラムを開催します。そこで、全国の大学院生（留学生を含む）に、このフォーラムでの研究発表を呼びかけます。発表は、ポスターによる展示発表です。発表者が一堂に会して参観者と交流をするというものです。院生の発表をお待ちしております。

★期日：9月25日（土）11:30～13:30 教育学部

院生ポスター展示用教室（予定。なお、発表数によって1～2教室準備します。）

★発表資格者：申込（8月31日締切）時点で大学院修士課程もしくは博士前期課程・後期課程に在籍している方で、学会入会手続きを完了し会費納入済みであれば、どなたでも発表できます。なお、入会については学会事務局にお問い合わせ下さい。

★発表形式：ポスターにもとづくテーマ、研究計画、概要等の質疑応答

★発表申込締め切り：8月31日（火）

※申込要領については、大会ホームページおよび学会ホームページであらためてお知らせして参りますのでそれをご覧ください。この件に関するお問い合わせは、学会事務局にて承ります。

3 海外トピックス

3-1 ISME 第29回世界大会のご案内

国際交流委員会委員長：水戸博道

ISME 第 29 回世界大会も、開催まであと 2 ヶ月となりました。ISME に関しては、これまでに組織の構造や大会参加の方法等について主にご案内してきましたが、今回は世界大会の内容について、少し踏み込んでご紹介させていただきたいと思えます。

ISME の本大会は、その内容が実に多彩であるということで、他の音楽関係の国際学会とは趣を異にしています。ISME が掲げるミッションの一つが「音楽教育家たちの世界的なコミュニティの構築」ということを考えると、これは当然のことかもしれませんが、ISME の世界大会において発表される音楽教育の内容は、音楽の様式、音楽教育が営まれるフィールド、音楽教育の対象者などにおいて実に多彩です。ISME の発表会場に入ると、アフリカンドラム、インド音楽、ジャズなどさまざまな音楽が私たちを迎えてくれます。そして、それぞれの会場では、これらの音楽の教育のあり方を、さまざまなフィールドや対象者を想定して討議されるのです。ISME では、発表形式や内容のユニークさも特徴の一つです。これまで私が参加したワークショップやプレゼンテーションも、ユニークかつ迫力のあるものが多くありました。たとえば、自らが指導する生徒を引き連れてジャズバンドの指導法を提案したワークショップは、まさに指導の現場に自分が立ち会っているような臨場感にあふれていました。また、タイの民族音楽を西洋の楽器で学習する方法を検討したプレゼンテーションでは、西洋とは微妙にピッチの異なるタイの音階の演奏を、リコーダーの穴をセロテープで少し狭めることで対応するなど、とてもユニークなアイデアが提案されていました。

こうした、多彩な内容の会議であるため、必然的に音楽教育にたずさわるさまざまな人々が世界大会には集まってきます。たとえば、ISME には、大学に所属する研究者や小中学校の音楽教師とともに、自宅などでのプライベートレッスンを行っている教師たちも参加します。ピアノ教師をはじめとした自宅でのレスナーたちは、教師間の国際的なつながりを持つことは簡単ではありません。こうしたことから、前回ボローニャ大会では、プライベートレッスンを行う教師のネットワーク構築を目的の一つとした、Instrumental and vocal Teaching というフォーラムが設立されました。今度の北京大会においても、このフォーラムを中心として、プライベートレッスンにおける器楽教育や声楽教育の興味深いプレゼンテーションが期待されます。

もちろん、世界大会のすべての発表が満足のいくものであるわけではありません。特に実践研究などでは、とりたてて新しい提案の感じられない発表もあります。しかし、こうしたことは、われわれが日本で行っている実践研究が非常に充実していることをあらためて実感することでもあり、ISME は日本で行われている音楽教育の内容やレベルを広く国際的な視野の中で確認できるよい機会でもあるのです。すでにご案内していますように、今回も ISME への参加ツアーが 8 月 1 日－6 日の日程で組まれています。このツアーはご希望にあわせて日程やホテルをアレンジすることも可能とのことです。また、航空券とホテルに空きがあればまだ受け付けは可能とのことです。お気軽に日通旅行・太田さん (TEL 03-3573-9337) までお問い合わせください。

4 ワークショップ

4-1 第 5 回ワークショップ in Sapporo 2010 のお知らせ

ワークショップ担当：寺田貴雄

学会企画として 2003 年から東京で開催して参りました夏期ワークショップを、今年度から全国各地で巡回開催していくことになりました。この夏の第 5 回ワークショップは、札幌で開催します。

日本を代表する民謡の一つである「江差追分」を存分に体験するワークショップです。北海道江差町から江差追分界の重鎮を講師に迎え、江差追分の歴史・文化・歌唱実技を存分に体験できる内容を企画しております。さわやかな夏の札幌で、江差追分をご一緒に学びませんか。みなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

- ★開催日 2010 年 8 月 19 日 (木)
- ★会場 北海道教育大学札幌校
- ★講師 青坂 満 氏 (江差追分会師匠会会長・上席師匠, 日本民謡協会名人位)
松村 隆 氏 (江差追分会理事, 江差追分会館元館長)
- ★内容 江差追分の歴史・文化と歌唱の体験講習 他
- ★参加費 会員 3,800 円 会員の学生・院生 3,300 円
非会員 4,000 円 非会員の学生・院生 3,500 円
- ★参加定員 60 名 (定員に達しましたら締め切ります)
- ★当日スケジュール

9:45	10:00	10:05~12:15		13:15~16:45	16:45
受付	開会	ワークショップ I	昼食	ワークショップ II	閉会

☆昼食は各自でお願いします (大学食堂は営業しております)。

☆終了後、懇親会も予定しております (会費別途 4,500 円, 市内別会場)。

- ★申込方法 参加ご希望の方は、8 月 12 日(木)迄に、①氏名 ②所属 ③会員・非会員の別 ④学生割引の有無 ⑤懇親会の出欠 ⑥連絡先メールアドレスまたは F A X 番号を明記の上、下記の申込先に電子メールまたは F A X でお申込み下さい。お申込み後、参加申込受理のお知らせを致します。お申込み後 7 日経過しても返信がない場合は、必ず再度お問い合わせ下さい。



【お申込・お問合せ】

寺田貴雄 (北海道教育大学)

E-mail: terada@sap.hokkyodai.ac.jp

TEL & FAX: 011-778-0443

5 事務局より

5-1 事務局長ご挨拶

今川恭子

4月より事務局長に就任致しました。齊藤前事務局長のもとで進められてきたさまざまな事務局改革の成果を受けて、学会活動を支えるために2年間精一杯努力して参ります。皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

ご存じのように、近年学術団体の一般社団法人化が増加する中であって、日本音楽教育学会は法人格をもたない、いわゆる任意団体です。しかし、だからといってその期待される社会的役割と果たすべき責任は、法人格をもつ団体となんら変わりはありません。事務局ではその点を自覚し、個人情報保護や経理の透明化などの社会的要請に応えるために最大限の努力をしております。こうした努力によって縁の下の力持ち的役割を果たすことは、事務局スタッフにとっても私にとっても大きな喜びですが、一方で、事務局業務の増大、複雑化が学会はもちろん事務局スタッフにも重い負担となりつつあることは否めません。この状況はいずれこの学会も同じで、現在少なからぬ数の学会が財政的な理由から事務局業務を外部委託しています。

私たちは当面、自前の事務局を維持し続けることにこだわって頑張りたいと考えています。その理由は、何よりも会員お一人お一人と事務局スタッフとがお互いに顔の見える関係の中で、温かみのある学会運営をできる、というところにあります。温かみのある事務局業務の担い手はもちろん事務局スタッフですが、会員の皆様のご協力、もっと言えば、お一人お一人の主体的な参加も不可欠です。事務局を「共に支える」というお気持ちをもって、事務局の現状をご理解いただき、さまざまな面でご協力たまわりたいと思います。加藤会長が表明しておられる「みんなで作る学会」という理念は、案外そのような小さなことから実現できるのではないのでしょうか。未来の音楽教育、未来の子どもたち、未来の大人たちに繋がっていくという希望と夢を会員の皆様と共有させていただきながら、心をこめて務めを果たして参りたいと思います。

5-2 お知らせとお願い

- 1) 年会費未納の方には、「払込取扱票」を同封しますので、至急お振り込みください。
- 2) 諸変更届はお早めに学会事務局に FAX または E-mail でお知らせください。
- 3) 新入会申込におきましては、新入会申込書とともに、会費の納入をお願いいたします。納入日が入会日となります。
- 4) 会費振込の際、「払込取扱票」にお名前と会員番号の記入を忘れずをお願いいたします。平成22年度に記入漏れが1件ありました。お心あたりの方はご連絡ください。

5-3 事務局開局時間とスタッフ

○事務局開局時間

月・水・金 10:00～16:00

(お電話でのお問い合わせは開局時間内をお願い致します)

○事務局スタッフ

亀山さやか・徳山菜央・中村幸子・山本由紀子

.....【編集後記】.....

本年度から2年間、坪能と小川が総務としてニュースレター担当になりました。当学会は財政状態が逼迫してきており、本年度からは常任理事会・理事会一体となって厳しい財政引き締め体勢をとっています。そのためニュースレターの予算もかなり少なくなりました。そんな中でも、会員の皆様への情報発信のメディアとして、会員の皆様とのパイプ役として、ニュースレター編集にはこれまで以上に力を入れていきたいと、担当の二人は意気込んでおります。

今回のニュースレターをご覧になっておわかりいただけると思いますが、今年度の当学会には注目の企画がいくつもあります。8月には夏期ワークショップ「第5回ワークショップ in Sapporo 2010」が札幌で行われ、9月の埼玉大会では、常任理事会企画として継続審議になっていたプロジェクト研究が「音楽と言葉をめぐってIー音楽を教える言葉の東西ー」と決まりました。また、来年度に予定されている学会ゼミナールも新たな装いで出発することになっています。これらの企画にご期待いただき、ぜひ皆様方の積極的なご参加をお願いいたします。

坪能由紀子 記

.....

<平成 22～23 年度 日本音楽教育学会役員>

会 長：加藤富美子
副 会 長：有本真紀
常任理事：今川恭子（事務局長）、坪能由紀子・小川容子（総務）、杉江淑子・島崎篤子（会計）、今田匡彦・南 曜子（企画）、奥 忍（編集）
理 事：寺田貴雄（北海道）、筒石賢昭・阪井恵・西島 央・山本幸正（関東）
後藤 丹（北陸）、新山王政和（東海）、田中多佳子（近畿）、三村真弓（中国・四国）、木村次宏・菅 裕（九州）
会計監事：田中健次・本多佐保美
事 務 局：亀山さやか・山本由紀子・徳山菜央・中村幸子

<日本音楽教育学会事務局>

【事務局本部】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

日本音楽教育学会事務局

TEL&FAX 042-381-3562

E-mail onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・水・金 10:00～16:00